

主体的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育む指導

～既習の知識・技能を活用して即興で話すことの言語活動の工夫を通して～

糸満市立兼城中学校教諭 長 嶺 裕 子

I テーマ設定の理由

「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説外国語編」（以下「解説外国語編」と表す）の総説で述べられているように、これからの我が国は厳しい挑戦の時代を迎えると予想される。近い将来、グローバル化の進展により、外国人観光客や外国人労働者が身近に存在し、子ども達が大人になる頃には、日本を訪れる外国人への挨拶や道案内だけでなく、近隣に外国人が住んだり一緒に働いたりすること等が予想され、外国語でコミュニケーションを図ることの必要性がますます高まると考える。

解説外国語編の改訂の趣旨に「グローバル化が進展する中で、外国語によるコミュニケーション能力は、これまでのように一部の業種や職種だけでなく、生涯にわたる様々な場面で必要とされる事が想定され、その能力の向上が課題となっている。」とある。また、新学習指導要領外国語の目標に「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す」と示されている。つまり、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付け、これらを活用して簡単な情報や自分の考えを述べることができる能力や態度を育成することが求められていると考える。

これまでの実践を振り返ると、英語力をつけるには語彙力や文法力が必要と考え、これらの定着を図るためのドリル学習を多く取り入れた授業を行ってきたが、その学んだ単語や文法を実際のコミュニケーションの場面で活用するための指導が不十分であった。また「話すこと [発表]」の場面では原稿を準備して、覚えさせてから、発表させる指導が多く、「話すこと」ではなく「読むこと」の指導になっていた。さらに生徒が自分の考えや気持ちを伝えようとする態度を育むことに課題があったため、既習の知識・技能を活用して、簡単な情報や自分の考えなどを述べる能力を育成し、生徒に主体的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育むことができていなかった。

そこで本研究では、既習の知識・技能を活用して簡単な語句や文を用いて即興で話すことを通して、生徒が主体的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育むための言語活動を工夫について実践・研究を深める。

II 研究仮説と検証計画

1 研究仮説

英語学習において、既習の知識・技能を活用してメモを用いて即興で話す言語活動を工夫することにより、生徒に主体的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育むことができるであろう。

2 検証計画

本研究では、事前に行う英語の授業に関するアンケート等から、生徒の実態調査、分析、把握を行う。検証授業は、1年2組の学級で9時間行う。検証授業では、生徒の発言、ペア・グループ活動の様子、ワークシートの記述、パフォーマンステスト (Show and Tell)、自己評価シート等により、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度が育まれたかを考察する。単元終了後にアンケートを実施し、事前調査との比較・分析を行い本研究の仮説を検証していく。

検証授業の対象：兼城中学校 1年2組 男子19名 女子12名 計31名		主な検証方法				
1 事前調査	○英語の授業に関する事前アンケート（12月下旬）	・事前アンケートの分析				
2 検証授業	<table border="1"> <thead> <tr> <th>日程</th> <th>検証の観点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> 「話すこと[発表]」の領域 Lesson 7 New Year 9時間 ・第1時（1/11） ・第2時（1/15） ・第3時（1/16） ・第4時（1/18） ・第5時（1/21） ・第6時（1/22） ・第7時（1/25） ・第8時（1/28） ・第9時（1/29） </td> <td> 検証授業 ・既習の知識・技能を使って、即興で発表しようとしているか。 ・メモを使って発表出来ているか。 ・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしているか。 </td> </tr> </tbody> </table>	日程	検証の観点	「話すこと[発表]」の領域 Lesson 7 New Year 9時間 ・第1時（1/11） ・第2時（1/15） ・第3時（1/16） ・第4時（1/18） ・第5時（1/21） ・第6時（1/22） ・第7時（1/25） ・第8時（1/28） ・第9時（1/29）	検証授業 ・既習の知識・技能を使って、即興で発表しようとしているか。 ・メモを使って発表出来ているか。 ・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしているか。	・授業観察（発言、態度等） ・毎時の帯活動の様子 ・ペア、グループ活動の様子 ・ワークシート ・Show and Tell ・毎時の振り返り（生徒の自己評価） ・授業記録（写真、ビデオ等）
日程	検証の観点					
「話すこと[発表]」の領域 Lesson 7 New Year 9時間 ・第1時（1/11） ・第2時（1/15） ・第3時（1/16） ・第4時（1/18） ・第5時（1/21） ・第6時（1/22） ・第7時（1/25） ・第8時（1/28） ・第9時（1/29）	検証授業 ・既習の知識・技能を使って、即興で発表しようとしているか。 ・メモを使って発表出来ているか。 ・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしているか。					
3 事後調査	○事後アンケート（1月）	・事後アンケートの分析 ・自己評価シートの分析 ・ワークシート ・授業記録、生徒の感想等の分析				
4 まとめ	○既習の知識や技能をつかって即興で発表していたか。 ○キーワードやメモを使って発表出来ていたか。 ○主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を育むことができたか。	・事前、事後のアンケートの比較、分析 ・結果のまとめ、考察				

Ⅲ 研究内容

1 主体的に英語でコミュニケーションを図る態度とは

(1) 英語でのコミュニケーションとは

新学習指導要領外国語の目標に、コミュニケーションとは「簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりする」とある。これは相手の考えや気持ちを理解しようとする態度や姿勢を持って、自分の考えなどを伝えるという人との交流を図ることである。さらに解説外国語編によると外国語によるコミュニケーションは「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」とある。

つまり英語でコミュニケーションを図るということは、英語を通して広い知識や価値観を持ち、異文化の人たちと交流することであると考える。

(2) コミュニケーション能力とは

表1はCanale & Swain (1980)が定義しているコミュニケーション能力の要素を表すものである。

表1 コミュニケーション能力 (Canale & Swain, 1980)

① 文法能力 (grammatical competence)	語彙、文法など言語項目を使いこなす能力
② 談話能力 (discourse competence)	まとまりのある文章・会話を理解し、作り上げる能力
③ 方略能力 (strategic competence)	コミュニケーションを円滑に進めるための方略を使う能力
④ 社会言語能力 (sociolinguistic competence)	社会文化的規則に従って適切に言語を使う能力

実際にコミュニケーションを図る上で①時制や語句、つづりの正確さを重視した文法能力だけでなく、②やりとりの流れの自然さを重視した談話能力、③つなぎ言葉やジェスチャー、言い換えの技術を使う方略能力、そして④話す相手によって表現や単語を使い分ける社会言語能力の4つの能力が必要である。

また、村野井(2006)によると、Canale & Swain のコミュニケーション能力の定義(表1)は「①言語能力」を中心としたものであると指摘し、実際にコミュニケーションを適切に行うための独自の定義を試みている。(図1)この定義にはこれまで従来のものには含まれなかった「③認知能力」「④態度・姿勢」「⑤世界のさまざまな事柄についての知識・考え」が加えられている。「③認知能力」とは思考力、類推力、想像力、分析力などの考える力を、「④態度・姿勢」とは異文化に対する態度など人間の価値観や人間性のことを意味しており、「⑤世界のさまざまな事柄についての知識・考え」は、自分が住む地域を含んだ世界の歴史や環境に関する知識とその知識に基づいた考えを意味している。これら5つのコミュニケーション能力の構成要素

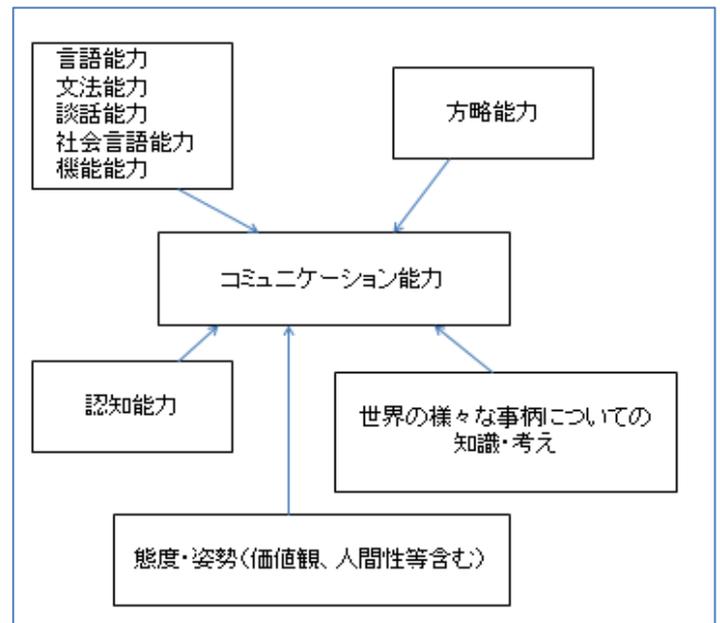


図1 第二外国語コミュニケーション能力の構成要素

素が総合的に作用することによってコミュニケーションが可能になると述べている。これは「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説総則編」で述べられている、育成すべき資質・能力の三本柱である「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力」、「学びに向かう力、人間性等」にリンクする。特に、「④態度・姿勢」や「⑤世界のさまざまな事柄についての知識・考え」は外国語科における「学びに向かう力、人間性等」の「外国語の背景にある文化や歴史を理解し、相手のことを配慮しながらコミュニケーションを図る」とことと大きく関連していることから、本研究ではこれらの定着を踏まえて言語活動を工夫する。

(3) 主体的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度とは

解説外国語編によると「主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度」とは「単に授業等において積極的に外国語を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度のみならず、学校教育外においても、生涯にわたって継続して外国語習得に取り組もうとするといった態度を養う」ことであると述べられている。しかし、生徒の英語力の面では、習得した知識や経験を生かして、コミュニケーションを行う目的や場面・状況等に応じて自分の考えや気持ちなどを適切に表現することに課題がある。そこで言語活動を工夫し、コミュニケーションの場面において、既習の知識・技能を活用して表現することを繰り返すことで、生徒に自信が生まれ、主体的に学習に取り組む態度が一層向上し、コミュニケーションを図る態度が育まれるのではないかと考える。

2 既習の知識・技能を活用した言語活動の工夫について

(1) 「話すこと [発表]」について

今回の学習指導要領の改訂で「話すこと」は「やり取り」と「発表」の二つの領域に分かれた。「話すこと」の目標を達成するための重要な条件として「即興」が掲げられている。解説外国語編によると「話すこと [やり取り]」において「『即興で伝え合う』とは、話すための原稿を事前に用意してその内容を覚えたり、話せるように練習したりするなどの準備時間を取ることなく、不適切

な間を置かずには相手と事実や意見、気持ちを伝え合うことである」と述べられている。一方「発表」は「『やり取り』のように伝え合ったり述べ合ったりするなど双方向的な形での『話すこと』ではなく、聞き手に対して一方向で話して伝えることができるようにする」とある。また即興で話す力については、「一度の授業や言語活動で身に付くものではない。1年生から即興で話す活動に継続的に取り組ませることで、即興で話す力を高めていく必要がある」とある。本研究では「即興で話すこと」を意識して、事前に原稿を書いたり暗唱したりするのではなく、興味・関心のある事柄をメモを用いて、正確さよりも生徒の伝えたいことを大切に、生徒が楽しみながら主体的に即興で話す活動に取り組む事ができるように言語活動を工夫していく。

(2) 段階的な指導の工夫

解説外国語編によると「学習した語句や表現などに意味のある文脈の中で繰り返し触れることができるようにしながら、様々な話題についてその場で英語を話すことに慣れていくことが必要である。さらに即興で発表すれば、多少の誤りやたどたどしさがあるのは当然であるという認識の下に、生徒が主体的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を養う必要がある。」とある。たった一度の授業や短時間で「話すこと」は身に付くものではないため、何度も Topic を変えて「即興」で話す言語活動を段階的に指導していく。また、発表の始め方や終わり方の言い回しや、発表での心得（目線やジェスチャーなど）、意見の述べ方、教師による Model 提示等を行っていくことで生徒が「即興」で話せるようになるのではないかと考える。

(3) 発表メモの工夫

即興で話すこと [発表] のためには発表の準備時間を取らず、簡単に自分の考えをまとめ、知っている単語などを基に説明するということである。しかし「英語で即興で発表する」と聞いた時点で、生徒にとってはとても高いハードルだと考える。その不安を解消するための手だてとして、メモの取り方の指導を行う。最初はどのような内容でどんな風にメモを取ればよいかを考えさせ、「シンプルに書く」「きれいに書かなくても良い」ということを意識させる。発表メモに関しては、日本語でも英語でもいいのでキーワードを書く事を意識させ、辞書で調べる欄も用意する。メモの記入時間も生徒の様子をみながら減らしていき、即興で話すことができる力を育てていく。

発表メモ	
Topic:	発表者:
発表するためのメモを取ろう！メモは日本語でも単語でも記号でもOK!	
3個以上のポイントを書けるようがんばって！4個以上はA評価です。	
①	Jisho-Time 英語でどう言えばいいかわからない 言葉を辞書で調べよう！
②	
③	
④	
⑤	

図 2 発表メモ

IV 検証授業

1 単元名 Lesson 7 New year (TOTAL ENGLISH 1)

2 単元の目標

○既習の知識・技能を使って、間違うことを恐れずに発表している。
【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

○Topic について、メモを使って即興で発表している。
【外国語表現の能力】

○次の表現を用いた文構造を理解する。疑問詞 when・助動詞 can
【言語や文化についての知識・理解】

*この単元目標及び CAN-DO リストは新学習指導要領の目標ではなく、教科書に合わせて現行の指導要領の目標で設定している。

3 単元について

(1) 教材観

本単元はお正月を Topic に、外国人であるベンやシーマにおせちや書き初めについて説明している設定である。日本の料理や書道などの日本文化が話題となっているが、「ことばと文化」という点からも興味深い教材である。日本のことばや漢字が持っている意味を改めて知り、さらに世界のことばや文化に目を向けさせる絶好の機会にしたい。

言語材料は、疑問詞 when と助動詞 can の用法が扱われており、実際のコミュニケーションの場面でも使用頻度の高い表現である。本単元では、疑問詞 when と助動詞 can の文構造を理解し、適切な文脈や場面で使用できる力を身に付けさせたい。そこで、本単元では、生徒が主体的に英語でコミュニケーションを行えるよう、コミュニケーションの目的・場面・状況を明確にして、ペアやグループでの発表を通して表現力を育みたい。段階的指導として、①疑問詞 when と助動詞 can の表現を用いて自分の考えを表現できるように様々な言語活動を行い、②毎時の帯活動で、メモの取り方や発表に役立つ表現を確認し、③導入時に行う教師による Small Talk や帯活動で学んだことを実践してみる。本単元では「話すこと [発表]」に焦点をあて、生徒が主体的にコミュニケーションを行うように、学習到達目標を「Topic について、メモなどを使って即興で発表する」と設定し、生徒が話しやすい Topic や場面を設定し、「発表」を通して、話す力を身に付けさせたい。

(2) 生徒観

1年生らしく、思ったことや疑問をすぐ口にする生徒が多い。授業中の発言や発表も活発で元気のあるクラスである。小学校から外国語活動でいろいろな表現に慣れていて、聞き取りも繰り返しも良くできる。自己紹介もほぼ全員が元気よく発表することができた。ただこのときは準備時間を十分に取って原稿を書かせた上での発表だったため、今回のサブテーマにもあるように「即興」という点では、本単元の発表は生徒にとっては新しいチャレンジでもある。本単元では好きなことや身近なことについて発表する必然性を持たせて、メモなどを使って即興で発表する力を付けていきたい。

事前アンケートの結果では、英語を話すことが楽しいと感じている生徒が57%おり、発表に対して不安に思っていると感じている生徒は52%もいることが分かった。この不安を解消し、自信につなげていけば、さらに主体的に英語でコミュニケーションを図る態度を育むことができると考える。

(3) 指導観

CAN-DO リストを活用して、単元で身に付けたい力を明確にし、授業を進めていく。本単元では「Topic について、メモなどを使って即興で発表する」ことを目標に外国語表現の能力「話すこと [発表]」に焦点を絞ることで表現力を育むことに取り組んでいく。また、本校では「話すこと [発表]」における CAN-DO リストの学習到達目標を以下のように設定した。

「話すこと [発表]」	
卒業時	関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で発表ができる。
本校の各学年学習到達目標	
3 学年	○身近なテーマについて調べ、メモを用いて発表することができる。 ○つなぎことばなどを適切に用いて場面に応じた表現を使用することができる。 ○既習事項を用いて、自分の意見や気持ちを分かりやすく話すことができる。
2 学年	○自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えることができる。 ○与えられたテーマについて簡単なスピーチをすることができる。
1 学年	○身近なことについて簡単なことばで発表することができる。 ○強勢、イントネーション、区切りなどに注意して発表ができる。

生徒が見通しを持って学習できるように、単元目標と学習計画を第1時に確認する。また、帯活動として発表の仕方やメモの取り方、Mini Show and Tell を行って定着を図る。さらに、間違えることを恐れずに、既習の知識・技能を活用して発表ができるよう指導していく。

4 評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力		ウ 外国語理解の能力		エ 言語や文化についての知識・理解	評価方法
	話す	書く	聞く	読む		
間違えることを恐れないで発表している。	やりとり	既習の知識・技能を使って、Topic について、メモを使って発表することができる。	/	/	①疑問詞 when と助動詞 can の文構造を理解している。 ②日本の伝統文化について理解している。	ア 活動の観察 ワークシート 自己評価シート イ Show and Tell エ 定期テスト
	発表					

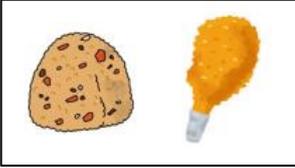
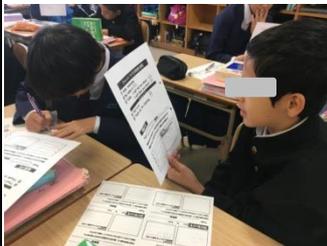
5 指導と評価の計画（全時間）

時	○ねらい ・学習活動	評価規準	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ○本単元で身につける技能や目標を知る。 ・授業の流れと評価方法を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> Topic について、メモなどを使って即興で発表することができる。 （自分の好きなこと、人、物について Show and Tell で発表） </div> <ul style="list-style-type: none"> ○帯活動①（Picture telling）＊発表メモを書いてみる Topic：「ピカチュウ/ドラえもん/アンパンマン」 ・本単元の新出語句の読み方と意味の確認を行う。 ・自己評価シートに今日の活動内容を記入する。 ・自己評価と本時の振り返りを行う。 	ア エー①	活動の観察 定期テスト (後日)
2	<ul style="list-style-type: none"> ○疑問詞 when の文構造を理解する。 ・疑問詞を導入する ・疑問詞の表現を練習する。 ・帯活動②（Picture telling）＊発表メモを書いてみる Topic：「沖縄そば/オムライス/カレーライス」 ・自己評価シートに活動内容を記入する。 ・自己評価と本時の振り返りを行う。 	エー①	活動の観察 定期テスト (後日)
3	<ul style="list-style-type: none"> ○助動詞 can/can't の文構造を理解する。 ・本単元の新出語句の読み方と意味の確認を行う。 ・助動詞 can / can't の導入をする。 ・助動詞 can / can't の表現を練習する。 ・帯活動③（Picture telling）＊発表メモを書いてみる Topic：「羽生弓弦/新垣結衣/学年の先生」 ・自己評価シートに活動内容を記入する。 ・自己評価と本時の振り返りを行う。 	エー①	活動の観察 定期テスト (後日)
4	<ul style="list-style-type: none"> ○助動詞 can の疑問文の構造を理解する。 ・帯活動④（Picture telling quiz）＊発表メモを書いてみる Topic：「Panda / Penguin / Kangaroo」 ・助動詞 can の疑問文を導入する。 ・助動詞 can の疑問文の表現を練習する。（Interview game） ・自己評価シートに活動内容を記入する。 ・自己評価と本時の振り返りを行う 	エー①	活動の観察 定期テスト (後日)

5	<p>○Mini Show and Tell ①を行う。(ペアで即興で発表する)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帯活動⑤ (発表の準備① 発表の時の心構え) Teacher' s Show and Tell Topic : 「animal」 ・Teacher' s Show and Tell で発表の時の心構えを意識して聞く。 ・Mini Show and Tell①をペアで即興で行う。 ①イラストタイム (約3分) 自分の好きな「animal」についてイラストを書く。 ②メモタイム (約3分) 自分の好きな「animal」について「発表メモ」を書く。 (このときは日本語でも単語だけでも OK) ③辞書タイム(約3分) 出したキーワードを辞書を使って英語でどう言うか確認する。 ④Mini Show and Tell (ペア活動) 話し手: 「発表メモ」に書いたことをもとに3~5文で発表する。 ・前後、左右、ななめなどペアを変えて行う。 ・自己評価と本時の振り返りを行う。 	ア	活動の観察 発表メモ
6	<p>○Mini Show and Tell ②を行う。(グループで即興で発表する)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帯活動⑥ (発表の準備② メモの取り方) Topic : 「sports」 Teacher' s Show and Tell をメモの取りながら聞く。 ・Mini Show and Tell①をグループで即興で行う。 ①イラストタイム (約3分) 自分の好きな「sports」についてイラストを書く。 ②メモタイム (約3分) 自分の好きな「sports」について「発表メモ」を書く。 (このときは日本語でも単語だけでも OK) ③辞書タイム(約3分) 出したキーワードを辞書を使って英語でどう言うか確認する。 ④Mini Show and Tell (グループ活動) 話し手: 「発表メモ」に書いたことをもとに3~5文で発表する。 ・自己評価と本時の振り返りを行う。 	ア	活動の観察 発表メモ
7 本時	<p>○Mini Show and Tell ③を行う。(グループで即興で発表する)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帯活動⑦ (発表の準備③ 語型) Teacher' s Show and Tell で語型を意識しながら聞く。 ・Mini Show and Tell③をグループで即興で行う。 色々なジャンルのカードの中から一つ選んでそれについて Show and Tell を行う。 ①メモタイム (約1分) ②辞書タイム(約1分) ③Mini Show and Tell (グループ活動) 話し手: 「発表メモ」に書いたことをもとに3~5文で発表する。 *一巡したらグループのメンバーとカードを変えて発表を行う。 ・自己評価と本時の振り返りを行う。 	ア	活動の観察 発表メモ
8	<p>○Show and Tell で発表する。 (これまで学んだ事を使ってクラスの前で、即興で発表する)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の流れと評価規準について確認する。 ・Show and Tell を行う。 ①メモタイム (約1分) ②辞書タイム(約1分) ③Show and Tell (発表会) 話し手: 「発表メモ」に書いたことをもとに3~5文で発表する。 ・自己評価と本時の振り返りを行う。 	イ	Show and Tell
9	<ul style="list-style-type: none"> ○本文の内容を確認する。 ・本文の読み取りを行う。 ・本単元の内容理解の確認を行う。 ・本文の内容についての Q&A を行い、確認する。 ・本時のまとめ ・自己評価と本時と本単元の振り返りを行う。 	エー②	

6 本時の指導（第7時）

(1) 本時の展開

	生徒の学習活動	指導上の留意点	評価方法										
導入 10分	<p>1 Greeting and Checking Today's Date</p> <p>2 帯活動⑦：(発表の準備③ 話型)</p> <p>3 本時のめあてを確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>めあて：Topic についてグループで即興で話すことができる。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 授業に入りやすくするために生徒と会話をしながら進める。 自己評価シートにめあてを記入させ、学習の見通しを持たせる。 											
展開 35分	<p>4 Teacher's Show and Tell Topic: 「food」</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>帯活動⑦ Teacher's Show and Tell</p> <p>発表メモ Topic: food</p> <p>Topic: <u>シーシー</u> 発表者: Yuko Nagamine</p> <p><small>発表するためのメモを取ろう！メモは日本語でも単語でも記号でもOK！ 3個以上のポイントを書いたらポイントが4つまで！4個以上はAです。</small></p> <p>① This is <u>シーシー</u>にぞり。 <small>①品名・価格 英語でどう言えばいいかわからない言葉を辞書で調べよう！</small></p> <p>② 吉田商店のシーシーが好き。 Cooked rice rice ball</p> <p>③ 吉田商店のチキンも好き。 Yoshida store too</p> <p>④ 安いから好き。 fried chicken</p> <p>⑤ 吉田商店は24時間営業。 cheap 24 hours open</p> </div> </div> <p>5 Mini Show and Tell③ (グループ活動)</p> <p>16枚の色々なジャンルの中から好きなカードを一つ選んでそれについて Show and Tell を行う。</p> <p>①メモタイム (1分程度)</p> <p>「発表メモ」に Topic に関わるポイントをメモ程度で書き込む。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>発表メモ</p> <p>Topic: <u>焼き肉</u> 発表者: Yuko Nagamine</p> <p><small>発表するためのメモを取ろう！メモは日本語でも単語でも記号でもOK！ ただし、少なくとも3個のポイントを書いてから発表して下さい。4個以上はAです。</small></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>① みんなで焼いて楽しい</td></tr> <tr><td>② おいしい</td></tr> <tr><td>③ 食べ放題</td></tr> <tr><td>④ テザートもある</td></tr> <tr><td>⑤ 焼き肉のタレが好き</td></tr> </table> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>辞書タイム 英語でどう言えばいいかわからない言葉を辞書で調べよう！</p> </div> </div> <p>②辞書タイム (2分程度)</p> <p>出したキーワードを辞書を使って英語でどうか分からない単語を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>発表メモ</p> <p>Topic: <u>焼き肉</u> 発表者: Yuko Nagamine</p> <p><small>発表するためのメモを取ろう！メモは日本語でも単語でも記号でもOK！ ただし、少なくとも3個のポイントを書いてから発表して下さい。4個以上はAです。</small></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>① みんなで焼いて楽しい</td></tr> <tr><td>② おいしい</td></tr> <tr><td>③ 食べ放題</td></tr> <tr><td>④ テザートもある</td></tr> <tr><td>⑤ 焼き肉のタレが好き</td></tr> </table> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>辞書タイム 英語でどう言えばいいかわからない言葉を辞書で調べよう！</p> <p>barbecued a kind of</p> <p>sauce a lot of</p> </div> </div>	① みんなで焼いて楽しい	② おいしい	③ 食べ放題	④ テザートもある	⑤ 焼き肉のタレが好き	① みんなで焼いて楽しい	② おいしい	③ 食べ放題	④ テザートもある	⑤ 焼き肉のタレが好き	<ul style="list-style-type: none"> 教師による本時の活動のモデルとして Teacher's Show and Tell を発表に役立つ表現を意識しながら聞く。 前時までの復習を兼ねて、発表の心得やメモの取り方なども確認する。 3~5個のキーワードを「発表メモ」に書き込む。 <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> 分からない言葉だけを調べる。 すぐに友達や先生に頼るのではなく、自分で調べる。 <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> 発表の時は「発表メモ」を使う。 即興で英語を使って表現出来るよう声かけを行う。 一巡したら、一度止めて教師からのコメントやアドバイスをもらう。 	<p>ア 活動の観察</p> <p>ワークシート 自己評価シート *回収し評価する。</p>
① みんなで焼いて楽しい													
② おいしい													
③ 食べ放題													
④ テザートもある													
⑤ 焼き肉のタレが好き													
① みんなで焼いて楽しい													
② おいしい													
③ 食べ放題													
④ テザートもある													
⑤ 焼き肉のタレが好き													

	<p>③Mini Show and Tell③ 先ほど書いた発表メモを使って、3～5文でMini Show and Tellを行う。 * グループの発表順を決める。 (誕生日順や名前のアルファベット順など) * 一巡したらグループのメンバーとカードを変えて発表を行う。 * これまで学んだ心得などを意識して発表を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>Show & Tell をするときは・・・</p> <p>①姿勢を正し、顔を上げよう。</p> <p>②聞き手に視線を向けよう。</p> <p>③メモをもとに「相手（聞き手）に伝える」ことを意識しよう。</p> <p>④ゆっくり、はっきり話そう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き手に説明が伝わるように話すことを意識させる。 	
まとめ 5分	<p>6本時のまとめと振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価を行う。 ・宿題の確認をする。 ・次時の予告を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時を振り返り、めあてを達成できたか自己評価表に記入させる。 	

V 研究の結果と考察

研究の考察は、事前・事後アンケート、ワークシート、自己評価シート、授業観察を基に行った。

1 既習の知識・技能を活用して即興で話すことにより、生徒が主体的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育むことができたか。

(1) 帯活動の工夫

生徒のコミュニケーション能力を育むことができるよう、単元全体を通して、「帯活動」を取り入れ授業を展開した。

① Picture telling

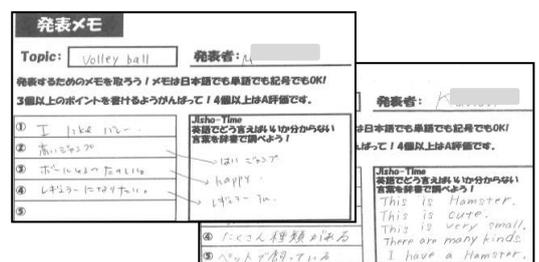
既習の知識・技能を活用して即興で話すための手だてとしてPicture tellingを取り入れた。Picture tellingは、写真やイラストなどを示して物事や人物について分かり易い英語で説明する力をつける活動である。(資料1)最初はキーワードもなかなか出てこなかったが、回を重ねる毎に色々な視点から説明しようとする態度が見られた。アンケートの記述からも、「Picture tellingを通して自分の知っている単語を使って人や食べ物を英語で説明する自信がついた」との回答が多く、Topicについての自分の考えを整理することに役立ったと考える。また生徒にとって身近で興味を引きやすいTopicを用いたことで、既習の知識・技能を活用して英語で説明することに効果があったと考える。



資料1 Picture telling

② 発表メモと辞書活用

「即興で話す」ための手だてとして、「メモを活用して話す」ことにチャレンジした。(資料2)最初の頃はメモよりもしっかりと英文を書く生徒が多く、コメントを短くまとめることができなかった。そこで



メモのサイズを手のひらサイズにしたり、メモを取る

時間を短くしたりすることで、すでに知っている言葉を使って簡潔にメモを書けるようになった。また、自分が表現したい言葉や分からない単語などを辞書で自ら調べたり、確認したりする生徒の姿から、主体的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育てることができたと考える。

③ 発表の心得や表現、話型の確認

Picture telling と平行して帯活動として取り組んだことは、発表に使える表現と話型の練習と発表の心得の確認である。(資料3) 自分の意見を言えば良い訳ではなく、聞こえやすい速さや声のトーン、視線を意識して、聞き手の事を考えること、これまでに学習した表現や話型もできるだけ使って慣れさせるように取り組んだ。回数を重ねる度に、「発表」に慣れて積極的に発表している様子が伺えた。

④ Model 提示 (デモンストレーション) の工夫

毎時間、生徒に Show and Tell をさせる前に教師の Model 提示(デモンストレーション)を行った。(資料4) 教師が Model 提示をすることで、コミ

ュニケーション活動において意識させたいポイントを生徒と教師が共有でき、帯活動で学んだ心得や話型を入れながら Topic を変えることで、生徒は発表の参考にすることができ、発表に対する不安を減らすことができた。成功体験を積み重ねていけば、自信を持って主体的な学びを促進していくと考える。

(2) 活動形態の工夫

図3、図4は事前アンケートの結果である。英語を話すことは楽しいと答えた生徒が57%、英語を話すことに不安を感じていると答えた生徒が52%おり、英語を話すことに不安や苦手意識を持っていることが分かった。不安に思う理由としては、「間違えたら笑われそうだから」、「単語の発音が分からなくて、恥ずかしいから」、「とにかく英語が苦手で自信がないから」などが多く挙げられた。このことから新出単語の導入をもっと丁寧に言い、辞書を使って知りたい単語を調べる機会を十分に与え、練習の時間だけでなく、誰と練習するか等の方法を考えるということが即興で話すことに重要だということが分かった。そこで段階的にペア学習、グループ学習、全体の前で発表するという流れで授業を進め、最初は少ない人数で即興で話す活動に継続して取り寄せ、徐々に発表する相手を4~5人に増やしていくことで、練

資料3 発表の心得や表現、話型の確認

資料4 Teacher's show and tell

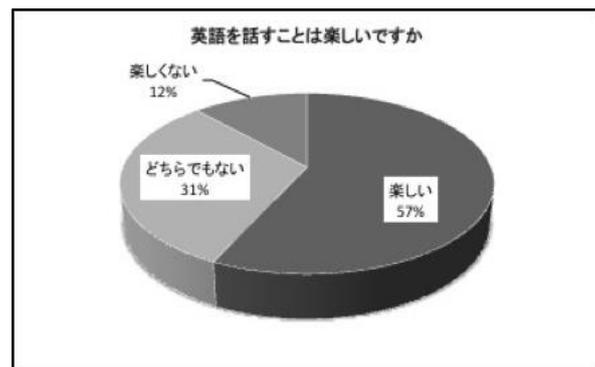


図3 話すこと〔発表〕に関するアンケート①

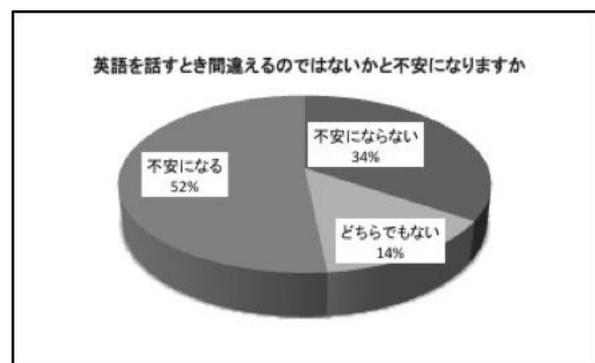


図4 話すこと〔発表〕に関するアンケート②

習する機会も増え、友人の発表を聞く機会も増えた。上手な生徒を参考にしたり、お互いアドバイスしたりしていくことができ、主体的に練習に取り組む姿勢が見られた。これらのことから、「即興」に慣れさせることで、生徒が発表する事に自信を持ち、表現することの楽しさを感じる事ができたと考える。

(3) パフォーマンステスト (Show and Tell)

第8時にパフォーマンステストとして Show and Tell を行った。(資料5) 自分の好きな物を持ってきてクラス全員の前で英語で紹介をする活動を「即興」で行った。ペットや食べ物、ゲーム機などを紹介したい生徒は写真や絵を見せながらの発表となったがどの生徒も堂々と視線を聞き手に向けて行っていた。生徒の感想に「Show and Tellは英語力を高めると思いました。自分が相手に伝えたい言葉が分からなくて辞書を使ったり、友達と相談したりしながら、分からなかった単語がわかるようになって嬉しかったです。発表は緊張したけど終わってみると堂々とみんなを見ながら出来たし、クラスのみんなの好きな物を知ることができて、嬉しかったです。」とあった。同様の感想を書く生徒が多くいて、話す自信に繋がったと考える。



資料5 Show and tell の様子

(4) アンケート結果から

事後アンケートで「英語で話すことは楽しいですか」(図5)という質問に対し、「楽しい」と答えた生徒は、57%から83%に増え、「楽しくない」と答えた生徒は12%から0%に減った。また、「ペアやグループで英語を話すことは自分の英語力を高めると思えますか」(図6、図7)という質問に対しては、検証後のアンケートではどちらも91%の生徒がペア活動やグループ活動において、英語力を高めることができたと思えた。これは「言語活動を工夫したことにより、一人で学習するよりも友達と学び合いながら学習したことで英語でコミュニケーションを主体的に図ろうした」のではないかとと思われる。さらに「間違ったら笑われそう」と答えていた生徒も友達と協力したことで、「思っていたよりも自分の英語力でコミュニケーションが取ることができた」という自信に繋がったと考えられる。

一方で「英語で話すとき間違えるのではないかと不安になりますか」(図8)という質問には「不安になる」と答えた生徒の割合は52%から48%になった。わずかな減少ではあるが、今後も学習指導要領にもあるように、即興で話すことを1年生から3年生まで継続指導を行うことで、生徒の話すことへの不安を払拭していきたい。

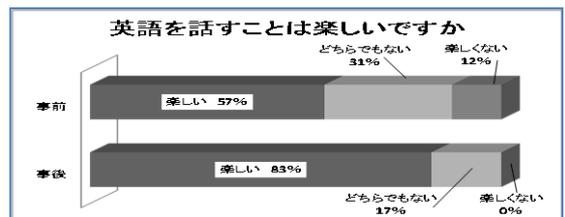


図5 話すこと [発表] に関するアンケート③

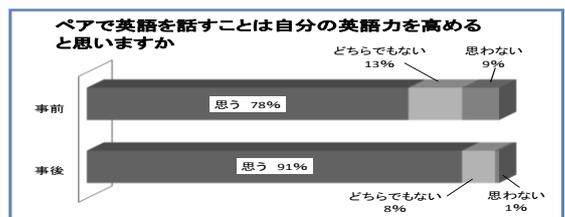


図6 話すこと [発表] に関するアンケート④

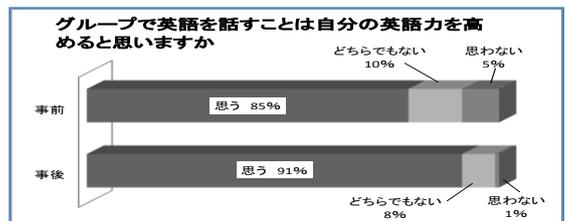


図7 話すこと [発表] に関するアンケート⑤

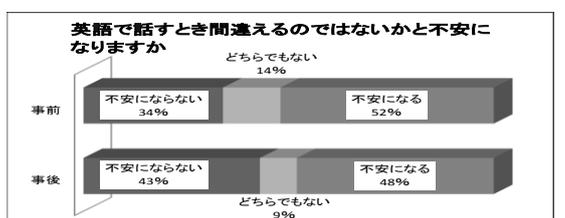


図8 話すこと [発表] に関するアンケート⑥

